

I 実践

1 本校の人権教育実践の目標

差別や偏見によって起こる問題を自らの問題としてとらえ、一人一人が互いに人権尊重の心をもち、差別や偏見をなくそうとする態度を育てる。

2 本校の人権教育における努力点

- (1) 人間としての生き方についての自覚の向上を図る。
 - ・授業研究の推進（各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間）
 - ・呼名のしかたの徹底
 - ・一人一人が尊重される学級づくり
 - ・ボランティア活動の推進
 - ・自他のよさに気づかせる場の設定と言葉かけの工夫
- (2) 差別や偏見の問題を直視し，正しい判断力の育成に努める。
 - ・差別や偏見に対する実態調査とその指導
 - ・人権コーナーの設置

3 実践内容

(1) 人間としての生き方についての自覚の向上を図る

① 授業研究の推進

本校では、「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を身に付けることができる授業づくり」を主題に，授業研究を推進している。色々な立場や多様な面から物事が考えられるように，各教科において学び合いの活動やグループ活動などを取り入れた授業づくりを行った。

② 呼名のしかたの徹底

呼名の際は，生徒によって，名前前の呼び方が変わらないようにし，名前に必ず敬称を付けるなど，生徒を一人の人間として尊重する取組を行った。生徒一人一人に対するイメージやとらえ方が，呼称の違いに表れることがある。一人一人に不公平感を感じさせないように配慮した。

③ 一人一人が尊重される学級づくり

毎日，級友のよい行いを賞賛し学級に「今日のSP（スペシャル・パーソン）」を掲示していくなど，生徒一人一人が所属感や自己有用感を感じる事のできる環境づくりを，各学級で工夫して行っている。

④ ボランティア活動の推進

十王川の清掃活動など，ボランティア活動を通して，地域の一員としての所属感や，郷土を愛する心を育んだ。

⑤ 自他のよさに気づく場の設定と言葉かけの工夫

ア あいさつ運動

今年度は，「TAG（Toyoura J.H.S aiming the best Active Greeting in Japan）」（生徒間の高めあいを目指して結成された本校独自の生徒組織）が毎学期1か月間，昇降口に立ちあいさつ運動を行った。2学期には豊浦小学校前でのであいさつ運動も実施した。いつでも・どこでも・誰とでもあいさつができる生徒の育成を目指している。

イ メッセージカードの作成

学校行事で企画や準備を行った実行委員や，大会に臨む部活動の選手へ，全校生徒が感謝や励ましのメッセージを書き，廊下に掲示している。たくさんの感謝や励ましが，一年を通して見られる環境づくりに努めている。

ウ 賞賛状

本校では、家庭学習ノート終えるごとに「努力を讃える賞賛状」が発行され、校長より表彰される。内容や時間、成績に関係なく、誰もが自分の努力を認められる機会となっている。また、思いやりのある行動を賞賛する「心を讃える賞賛状」を発行し、生徒を褒める場面を増やすように工夫している。

(2) 差別や偏見の問題を直視し、正しい判断力の育成に努める

① 携帯電話マナーアップ教室の実施計画

インターネット上の人権侵害を未然に防ぐため、携帯電話マナーアップ教室を2月に実施する。スマートフォンが普及し、これからさらにトラブルの危険性が増す中、生徒が正しい使い方や判断する力を身に付け、情報モラルの向上を図る。

② 教科による人権意識の向上

国語科：社会的差別を題材とした作品で、登場人物の心情を考え、差別や偏見をおかしいと思える感性を育んだ。

社会科：公民的分野においては、人権の意味や、様々な人権課題の正しい理解を図った。また、歴史的分野でも同和問題や、アイヌの人々に対する偏見の歴史など、人権に関する問題の根深さを知り、正しい理解ができる指導に努めた。

③ いのちの教室の実施

3年生を対象にして外部講師（医師）を招き、男女の心身の特徴をもとに男女が互いに相手を理解し、人格を尊重する心情や態度を育てることを目的に実施された。生徒は生命の尊さや男女の性、HIV感染症に関する講話を聴き、正しい知識を学ぶ機会となった。

4 成果

- ・ 教科指導等を通して、今日の差別や偏見について正しい知識をもたせ、一人一人が互いに人権尊重の心を持ち、差別や偏見をなくそうとする態度が育てた。
- ・ 今年度のあいさつ運動は生徒たちの意見から始まったものである。あいさつすることは、他者の存在を認め、自分の存在を知ってもらうことになり、人権尊重の基本である。あいさつ運動を通して、生徒のあいさつに対する意識の変容を感じた。
- ・ メッセージカードを廊下掲示することで、多くの生徒が立ち止まって見ており、誰かの役に立つ自己有用感や、応援されるうれしさを感じる場となっている。生徒たちは、友情の尊さを再確認し、互いに励まし合い、高め合うことの大切さを知る機会となった。

II 今後の課題

- 生徒の人権尊重の意識を高めるため、人権コーナーや掲示物の充実といった校内環境の整備、校内研修による教師の人権意識の向上、さらに道徳を中心とした学校教育全体での人権教育の実践の拡充を図っていく必要がある。
- 今年度、生徒会が中心となり、いじめに関するアンケートを実施した。今後はその結果を踏まえ、どのようにいじめ撲滅を目指していくかを生徒が中心に話し合いながら取り組んでいく工夫が必要である。

III 人権コーナー

【人権コーナー】



【あいさつに関するポスター】

